

野生ミナミハンドウイルカのモニタリング技術向上を目的とした母仔間における同伴率の研究

○八木原風・酒井麻衣(近大農)・小木万布(御蔵島観光協会)

野生ミナミハンドウイルカ (*Tursiops aduncus*, 以下本種) のモニタリングでは洋上や水中において背鰭や体表面の傷などを自然標識として利用した個体識別調査が主流である。しかし、離乳前の幼獣は自然標識が見つからないことが多く、個体識別が難しい。さらに本種では、あるメス個体の仔を他のメス個体が連れるベビーシッター様の行動が知られている。このような生態的な背景から野生観察における本種の母仔関係の判定は容易ではない。そこで、本研究では新規加入量をより正確に把握することで本種の資源動態解明に寄与することを目的に東京都御蔵島に生息する本種を対象に母仔の同伴に着目した研究を行った。幼獣の同伴が1度でも確認されたメス個体について全観察回数に対する幼獣の同伴数を計算し、これを同伴率とした。真の母を翌年も幼獣を連れている個体と定義し、真の母と翌年に幼獣の同伴が確認されていないメス個体との同伴率の差異を検討した。結果として2群間で有意な同伴率の差が確認され、同伴率は母仔の判定指標として有用であることが示された。